

# 2013年度(2014年3月期) 第1四半期決算説明会



2013年7月31日

大正製薬ホールディングス株式会社

執行役員 齊藤 隆

大正製薬によるバイオフェルミン製薬製品の  
独占的販売権の取得  
およびバイオフェルミン製薬株式の  
一部譲受けについて



# 合意した基本的条件（要点）

- 大正製薬による  
バイオフェルミン製薬製品の独占的販売権の取得
  - 国内における取引：  
大正製薬が武田薬品工業に一定期間販売権を付与
- バイオフェルミン製薬株式の  
武田薬品工業から大正製薬への一部譲受け



# ビオフェルミン製薬製品の独占的販売権の取得

## • 国内における取引

- ビオフェルミン製薬と武田薬品工業との間は、2013年12月末をもって合意解約
- 2014年1月以降、大正製薬がビオフェルミン製薬製品の独占的販売権を取得
- 大正製薬が武田薬品工業に対し一定期間販売権を付与

## • 輸出取引

- ビオフェルミン製薬と武田薬品工業との間は、2015年12月末に契約終了
- 大正製薬グループの現地法人が武田薬品工業グループから現地輸入承認の移管を受ける(台湾・香港)



# 販売のフロー

	現状	移行後
国内 OTC 医薬品 等	(~2013年12月) 	(2014年1月~) 
国内 医療用 医薬品		(2014年1月~) 
海外	(~2015年12月)  現地輸入承認を 大正へ移管	(2016年1月~) 



# バイオフェルミン製薬株式の 武田薬品工業から大正製薬への一部譲受け

- 武田薬品工業が保有する  
約10.20%\*の保有株式(1,216,897株)のうち、  
約8.15%\*(972,320株)を大正製薬が譲り受ける
- 異動後の大正製薬保有状況:  
7,632千株(議決権所有割合:63.98%)
- 譲渡契約書締結日:2013年7月31日

\* 議決権所有割合

2014年3月期  
第1四半期決算について



# 2013年度第1四半期決算：概要

(億円)

	2012年度 1Q	2013年度 1Q	前年同期比 増減	
売上高	678	682	+4	+0.6%
セルフメディケーション	414	424	+11	+2.5%
医薬	264	257	▲6	▲2.5%
営業利益	98	90	▲8	▲7.7%
経常利益	122	115	▲7	▲5.6%
四半期純利益	76	74	▲2	▲2.4%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算





# 2013年度第1四半期の概況(1)

## • セルフメディケーション事業(大正製薬 国内)

### – 主要ブランドの実績(前期比)

- リポビタンシリーズ(4.2%減):  
リポビタンD(7.9%減)は厳しい状況続く  
シリーズ品はリポビタンファイン伸長、  
新製品リポビタンフィールが寄与
- パブロンシリーズ(12.8%減):  
総合感冒薬は苦戦、  
鼻炎治療薬は花粉飛散の早期終息によりマイナス
- リアップシリーズ(横ばい):  
リアップX5は計画通りだが、既存品1%製剤が引き続きマイナス
- リビタシリーズ(16.3%減):  
粉末シリーズが苦戦

### <ご参考:市場の状況>

#### – OTC医薬品市場

2013年度第1四半期(4~6月):前年比▲1.7%

(インテージSDIデータ、金額ベース)



# 2013年度第1四半期 主要ブランド売上高

(億円)

	2013年度 1Q	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	169	▲7	▲4.2%
パブロンシリーズ	42	▲6	▲12.8%
リアップシリーズ	33	▲0	▲0.7%
リビタシリーズ	11	▲2	▲16.3%
胃腸薬シリーズ	10	▲1	▲7.9%
ナロンシリーズ	10	+0	+2.4%
コーラックシリーズ	8	▲1	▲8.6%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2013年度第1四半期の概況(2)

- 海外OTC医薬品事業  
- 各地域、各ブランドとも順調に推移

(億円)

	2012年度 1Q	2013年度 1Q	前年同期比 増減	
SM海外事業全体	41	62	+22	+53.1%
海外ドリンク剤	18	23	+5	+30.5%
海外OTC医薬品	21	37	+16	+75.5%
BMS社からの買収分	14	17	+3	+23.2%
Hoe社	6	8	+2	+30.2%
CICSA社等4社	-	5	+5	-
大正オソサパ製薬	-	6	+6	-

注: 金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2013年度第1四半期の概況(3)

## • 医薬事業

### – 大正富山医薬品:

- 売上高:240億円(前年同期比1.2%増)
- 感染症領域:ゾシンが引き続き好調

クラリスは経口抗菌薬市場の縮小により減少

– 大正富山医薬品の抗菌薬市場\*シェア:20%

(\*J01抗菌薬市場)

- 炎症・免疫領域:エディロールが好調に推移

<ご参考:市場の状況>

– 医療用医薬品市場:前年同期比+3.7%

- 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲2.5%  
(経口:▲4.8%、注射:+0.5%)

(Copyright 2013 IMS ジャパン(株)、JPM2012年・2013年(4-6月)をもとに作成、無断転載禁止)

# 大正富山医薬品：2013年度第1四半期 主要製品売上高



(億円)

	2013年 1Q	前年同期比 増減	
大正製薬製品			
クラリス	36	▲7	▲17.2%
エディロール	28	+13	+81.2%
パルクス	20	▲2	▲10.4%
ジェニナック	7	▲2	▲25.1%
富山化学製品			
ゾシン	59	+8	+15.9%
オゼックス	18	▲1	▲3.7%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2013年度1Q：売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (+4億円)	セルフメディケーション事業 (+11億円)	医薬事業 (▲6億円)
営業利益 (▲8億円)	売上総利益* +0.7億円 (売上総利益率* 前年同期62.8% → 当期62.5%)	
	販管費 +8億円	
	(主な販管費の増減)	
	・研究開発費 ▲2億円	
	・広告宣伝費 ▲3億円	
	・販売促進費 +4億円	
	・人件費 +4億円	
・その他 +5億円		
営業外損益：持分法投資利益 3億円(前期5億円)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

# 2013年度：業績予想



5月時点の予想を変更しない

(億円)

	2Q累計 予想	通期 予想	前期比増減	
売上高	1,445	2,930	+78	+2.7%
セルフメディケーション事業	924	1,812	+99	+5.8%
医薬事業	521	1,118	▲21	▲1.8%
営業利益	205	395	+42	+11.8%
経常利益	245	475	+33	+7.5%
当期純利益	150	300	+37	+14.0%
1株当たり当期純利益(円)	184.97	369.94	+44.68	+13.7%
(参考)				
大正富山医薬品売上高	487	1,050	+48	+4.7%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

# 2013年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2012年度	2013年度予想			
		新	前期比	旧	修正額
リポビタンシリーズ	668	670	+2	670	—
パブロンシリーズ	261	262	+1	262	—
リアップシリーズ	139	140	+1	140	—
リビタシリーズ	47	50	+3	50	—
胃腸薬シリーズ	43	44	+1	44	—
ナロンシリーズ	41	40	▲1	40	—
コーラックシリーズ	37	37	+0	37	—
クラリス	190	180	▲10	190	▲10
エディロール	88	120	+32	110	+10
パルクス	85	85	±0	85	—
ジェニナック	61	70	+9	70	—
ゾシン	215	240	+25	230	+10
オゼックス	82	80	▲2	85	▲5

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算





# 2013年度予想： セルフメディケーション海外事業

- 市場の拡大に加え、引き続き積極的な販促活動を展開

売上高および増減要因の主な内訳

(億円)

	2012年度 通期	2013年度 通期予想	前期比 増減率	前期比 増減額	主な増減要因
SM海外事業全体	176	253	+44.1%	+77	
海外ドリンク剤	71	93	+31.9%	+23	タイで増加
海外OTC医薬品	96	155	+62.2%	+60	
BMS社からの買収分 (A)	56	60	+7.7%	+4	
Hoe社	27	38	+42.0%	+11	
CICSA社等4社	7	22	+213.6%	+15	通期寄与 (前期は6カ月分の寄与)
大正オソサパ製薬	3	31	NM	+28	オソサパ社製品通期寄与 +20 (前期は2カ月分の寄与) (A)からの移管 +8

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2013年度予想： 売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+78億円)	セルフメディケーション事業 (+99億円)	医薬事業 (▲21億円)
営業利益 (+42億円)	売上総利益* +79億円 (売上総利益率* 前年同期61.8% → 当期62.8%)	
	販管費 +37億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲6億円
	・販売促進費	+28億円
	・広告宣伝費	+12億円
	・人件費	+10億円
	・その他	▲6億円
営業外損益：持分法投資利益 16億円(前期並み)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# セルフメディケーション事業：新製品

エパデールT：2013年4月発売（適正使用調査実施中）

## <2013年度の主な新製品（予定）>

### <上期>

リポビタミンフィール

エパデールT

ジクロテクトPRO

ヴィックス メディケイテッド

ドロップ ブルーミント

など

### <下期>

ドリンク剤

パブロンシリーズ

コパトーン(リニューアル)

H&B関連

など

赤文字：発表・発売済みの製品



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

## パイプラインの変更点

→ボンビバ静注：承認(2013年6月28日)

大正製薬開発品：国内

(2013年7月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
TS-071* (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 2型糖尿病	自社	大正製薬
フェーズ3			
CT-064** (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン

\*TS-071

一般名：ルセオグリフロジン水和物

\*\* CT-064

一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品(続き)

(2013年7月31日現在)

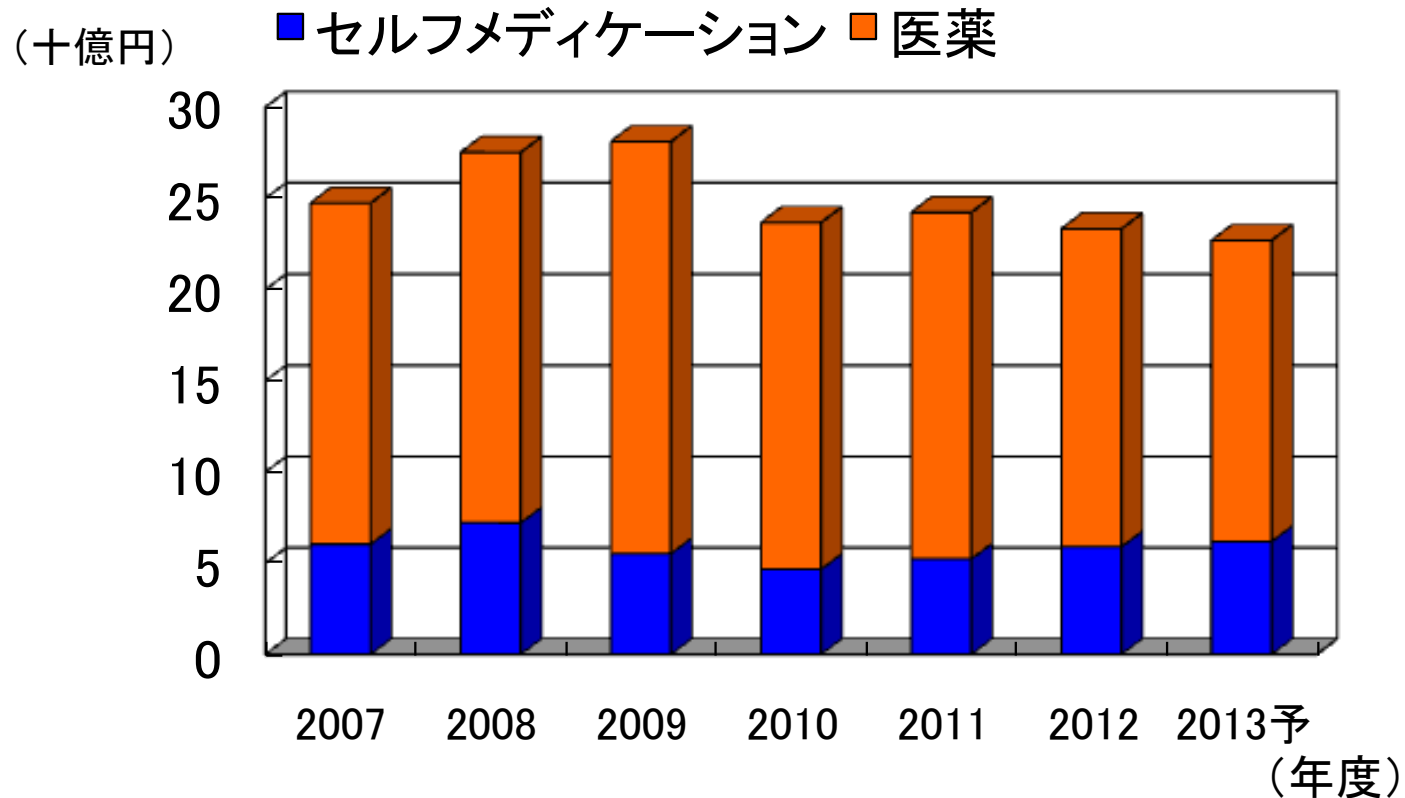
	特長他 予定適応症等	開発形態	オリジン
フェーズ2(国内)			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬
フェーズ1			
	対象疾患	自社／導入	国内／海外
TS-091	睡眠障害	自社	国内
TS-071	2型糖尿病	自社	海外
TS-111	うつ病	自社	海外



# 研究開発費の動向

2013年度1Q実績：51億円（前年同期比▲2億円）

2013年度計画：変更なし、227億円（同▲6億円）、



# 參考資料



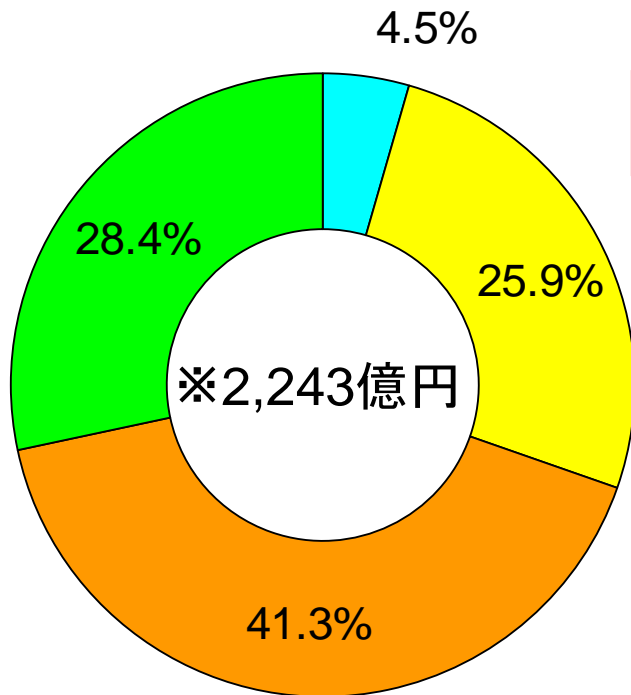
# OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く

(2012年4-6月)

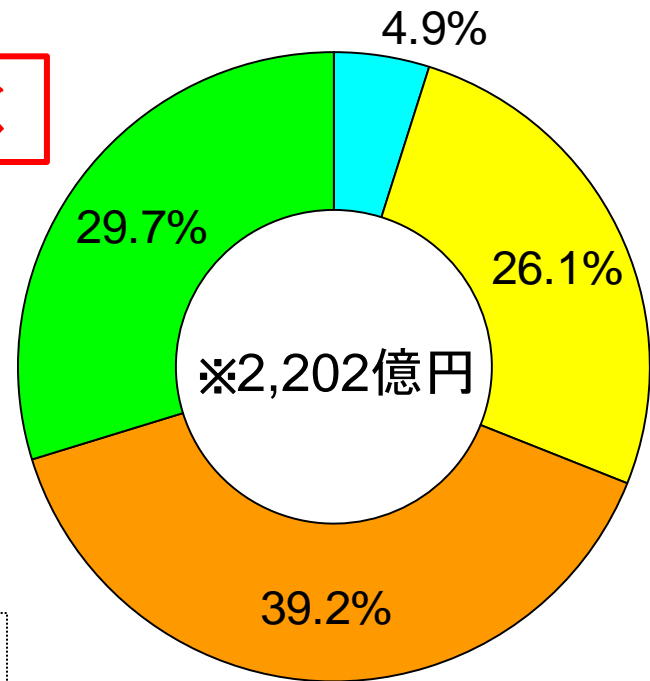
(2013年4-6月)

第1類の  
前年比  
108%



部外品を除く

前年比  
98%



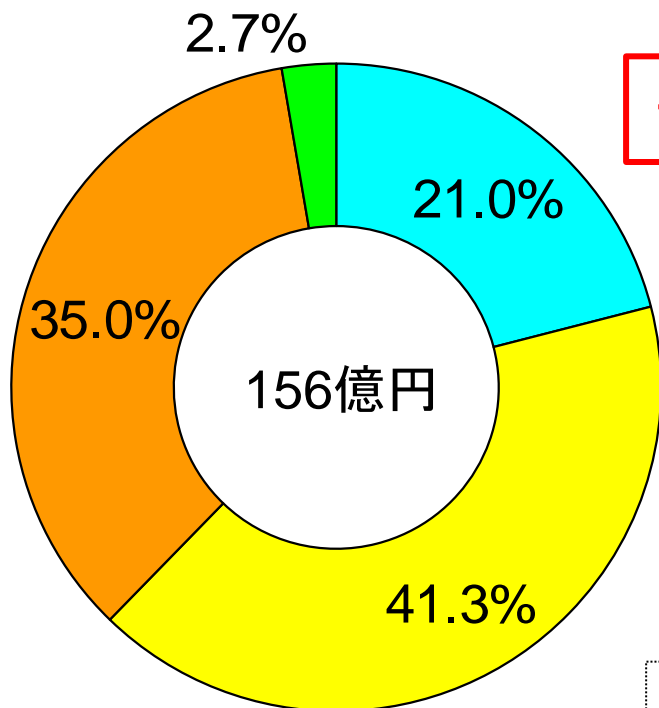
(インテージSDIデータ2013年7月時点、金額ベース、各年4-6月累計)





# 当社のOTC医薬品分類別売上構成比

2012年4-6月



部外品を除く

前年比  
93.0%



2013年4-6月

